

第 5 章 練習問題

[5.1] (投票の数字的扱い) 投票が常に最善の選択を保証するとは限らないことを、数学的例をもって示しなさい。

[5.2] (社会的順序) X, Y, Z の 3 人が選択肢 A, B, C に対してそれぞれ選好順序をもつとし、これら選好順序は無差別 (\sim) も含めてどのような場合も許されるとする (表 1 - 4)。これらのそれぞれを基礎として (関数的にいえばこれを独立変数として) 社会順序に集計する決め方の f をあらかじめ 1 通り決めておきたい。この社会的順序も上記に同じくどのような場合でも可能とし、何ら制約は課されないとする、何通りの f が可能か。それはおよそどの程度の数か。

[ヒント] 極めて多い。対数はたとえばエクセルによること。